

津田中だより



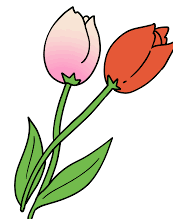
第14号

枚方市立津田中学校
令和7年3月24日
発行 校長 田中 博

自他敬愛

修了式をむかえました！

～来年度への準備とさらなる向上を～



今年度も修了式の日をむかえました。この一年間で、皆さんはずいぶん成長したと思います。一年生は、入学した頃の緊張感もなくなり、中学校生活に慣れてそれぞれのペースで学校生活が送れているように思えます。二年生は、先輩として、授業や部活動、生徒会活動などで頼もしさが出始めたように感じます。



明日から始まる春休みが終われば、皆さんはそれぞれ進級し、一年生は先輩に、二年生は津田中学校の最上級生としての学校生活が始まります。今年度頑張ってきたことをさらに続けて、一人ひとりがしっかり目標を定められる準備をしてください。そして、高みへの「質の向上」「レベルアップ」をめざしてください。

送る言葉

校舎を吹き抜ける風も徐々に暖くなり、教室の窓から差し込む日差しに春の訪れを感じる季節となりました。今日、この佳き日に津田中学校を旅立られる239名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

先輩方には、様々な学校行事や部活動で大変お世話になりました。特に部活動では、先輩という存在を知らずに、生意気だった私たちを暖かく迎え入れてくれて、目上の人との接し方や集団生活における規律の大切さを、時に厳しく、時に優しく教えてくれました。そんな先輩方の姿は格好良く、尊敬と同時に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、カルスポ祭体育の部では、先輩方が率先して盛り上げてくれて、私たちも目一杯楽しむことができました。仲間を応援する先輩方の声や団員全員で歌った応援歌など、たくさんの声が運動場全体に響き渡り、団を越えて学校全体が一つになった一体感は今でも忘れられません。

文化の部では、学年がたった一つしか変わらないのにもかかわらず、私たち2年生とはひと味違う歌声の力強さや重なり合うハーモニー、先輩方から伝わってくる熱い思いは、聞いている私たちの心に響くものでした。

学校行事だけでなく、普段の生活の中でも様々なことを見て学ぶことができました。先輩方の一生懸命な姿や頼もしい姿、優しさ溢れる笑顔などがとても印象的です。今までこの学校を支えてくださった先輩方が卒業されると思うと、とても心細いです。しかし、最高学年になる私たちは、先輩方から教わったことを受け継ぎ、先輩方に負けないようなよき手本となれるように頑張っていきます。

先輩方は4月から一人ひとりが選んだ夢に向かって進んでいけます。これから歩む道は決して楽なことばかりではないと思いますが、そんな時は、本校で過ごした3年間を思い出してください。頑張ったこと、笑いあったこと、辛かったこと、悩んだこと、そして仲間と過ごしたかけがえのない日々を。

今まで培ってきたきずなや思い出を力に、先輩方らしくどんな未来も切り開いて

いってください。先輩方、今まで本当にありがとうございました。先輩方のご健康とご活躍をお祈り、これを送辞とさせていただきます。

在校生代表

【保護者の皆様へ】

例年実施しています教職員の離任式ですが、今回から年度初めではなく3学期修了式の日に行うことになりました。本日、3月末をもって本校から異動する教職員につきましては、離任式で紹介させていただきました。なお、次年度のそれぞれの異動先につきましては、次年度の学校だよりにてお知らせいたします。

第78回 卒業証書授与式



桜のつばみも膨らみはじめ、春の訪れが感じられる今日の日、私たちは津田中学校を卒業します。先ほどは、校長先生、来賓の方々、そして、在校生代表のみなさんからの力強い励ましの言葉とはなむけの言葉をいただいたこと、心より感謝します。これから始まる高校生活に期待や不安を感じつつ、三年間ともに切磋琢磨してきた二三人の仲間と、こうして旅立ちの日を迎えられることを本当に嬉しく思います。

三年前の春、新しい制服に袖を通し、私たちは津田中学校に入学しました。慣れない環境で新しい仲間や先生達と出会い、不安や緊張を感じながら、中学校生活が始まりました。しかし、日が進むにつれ、だんだん互いの事が分かっていき、初めは静かだった教室が次第に賑やかになっていきました。初めて行った滋賀への一泊二日の宿泊学習では、キャンプファイヤーで一つの火を囲みながら、これからこの仲間と三年間を過ごすという実感がより湧きました。

二年生へと進級し、新鮮な空気感の中、全てが初めてだった一年生の頃よりも少し余裕を持って勉強や部活動に取り組むことができました。部活動では初めて後輩ができ、今まで自分たちを引っ張ってくれていた先輩の温かさに気づき、少しずつ先輩としての自覚や責任を感じるようになりました。全力を注いで来た部活動では、目標を達成するためにたくさんの努力と時間を費やし、最後には、私たちの背中を見てきてくれた後輩達にバトンを繋ぐことができました。

宇治への校外学習では外国人に話しかけるという、学校ではできない貴重な体験ができました。また、抹茶作り体験では、インストラクターの方の優しい教えもあり、自分で点てたお茶がとてもおいしく感じました。

二年生の一年間は、勉強が難しくなるだけでなく、後輩ができるなど、大きな変化の多い年でした。その中で、クラスや部活動での自分の役割を少しずつ理解し、自信を持って挑戦できるようになりました。振り返ると、一年生の頃よりも中学生としての自覚が深まり、大きく成長できた一年だったと感じています。

最高学年として学校を引っ張る立場となった3年生。クラスが変わって間もない頃に行った修学旅行では、まだお互いによく知らない状態で、楽しめるかなという不安もありました。しかし、実際に行ってみると、様々な体験を共にすることで、その不安は消えていきました。移動中のバス内では、バスレクだけでなくカラオケやトランプをして、みんなで盛り上がりました。ラフティングでは、思った方向にボートを進めるのがとても難しく、班のみんなと協力し、息を合わせて川を下りました。そして、クラスミーティング。普段からは想像できないくらい、全員が真剣な顔をしていました。いつもはふざけ合っている仲間から語られる言葉や、初めて聞く将来の夢に、驚き、胸が熱くなり、涙が止まらない人もいました。本気で語り合うことで、お互いの思いや考えを尊重するきっかけにもなりました。修学旅行三日目以降のクラスは、それまでに比べて、一層団結力が強まったように感じます。

秋に行われた最後のカルスポ祭文化の部では、「かさねる」という目標を掲げて取り組みが始まりました。初めの頃は練習に集中できない人もいて、悔しい思いをしたこともありましたが、しかし、中間発表で他のクラスの合唱を聞き、このままではいけないという焦りから、クラスの雰囲気が変わり始めました。全力で、後悔のないように、このクラスでしか歌えない合唱を作り上げよう、という思いで最後まで練習に取り組み、本番では今までの体育の部では、クラスだけでなく、後輩たちとも一丸となり、それぞれの団を優勝に導くために大きな声援を送りました。クラスメイトと一致団結して挑んだ全員リレーで、アンカーがゴールした瞬間は、今でも忘れることができません。

自分の進路と向き合う時期になり、不安になったり自信をなくしそうになったとき、寄り添い、応援してくれたのはクラスの仲間達です。進む道は違っても一緒に頑張ろうと励まし合いながら、最後まで頑張ってきました。

私たちはこの三年間、お互いを尊重しながら学校生活を送ってきました。時には衝突もありましたが、仲間と向き合い、解決してきました。いろんな行事に全力を注ぎ、学び、絆を深めることができました。どんな些細な日々も、私たちにとって、仲間と共に笑いあった一生の思い出に残る大切な日々です。私は、同じ学年の仲間が、学年を支えてくださった先生方がこのメンバーでよかったと心の底から思っています。

この中学校生活三年間を通して、本当にたくさんの経験と思い出ができました。一緒に笑いあった日、たくさん頑張った日、怒られた日、喧嘩した日、私たちは様々な日々を共に過ごしてきました。共に過ごした思い出も、共に過ごした仲間も、この三年間で学んだことは全て、これからも忘れることのできない大切なかけがえのないものばかりです。まず、今ここにいる生徒会の皆さん。これからも津田中学校を引っ張って行ってください。そして最高の中学校生活を送ってください。皆さんの中には一歩踏み出すことが苦手な人もいます。ですが、もともと自信のある人はいないと思います。結果に関わらず挑戦することで周りの人から褒められるという経験が自信に変わるということを私は中学校生活で学びました。なので様々なことに挑戦してたくさんの自信をつけてください。

次に中学校生活を支えてくださった先生方。先生方には、時には怒られ、厳しいことを言われたこともありましたが、ですが、それ以上にたくさんの愛情を注いでくださいました。先生方から教わったのは勉強だけではありません。厳しい言葉から学んだこと、優しくかけてくださった言葉など、本当に様々な場面で多くのことを学ぶことができました。三年間私たちを見守ってください、ありがとうございました。

そして、私たちを一番身近で見守ってくれた保護者の皆さん。日々の愚痴や不安をたくさんぶつけても優しく聞いてくれたり、強く背中を押してくれたおかげで私たちは無事にこの日を迎えることができました。いつも優しく見守ってくださいありがとうございました。おかげで私たちは無事にこの日を迎えることができました。これからはずっと見守って行ってください。改めまして、この三年間でたくさんの方々を支えられてきました。本当にお世話になりました。

私たちはこれからそれぞれの道に進んでいきます。難しいことの方が多いと思いますが、この三年間を乗り越えられた私たちならきっと乗り越えていけると信じています。

令和7年3月14日
卒業生代表

